

株式会社笠盛

若い人も持て、アクセサリー感覚で身につけることができる、軽くカラフルな糸で作った数珠の開発



独自の球形刺繍技術を発展させ、軽量、カラフルでハートや星形のおしゃれな大粒の刺繍を製作。ファッション性とオリジナリティーが高く、プレスレット感覚、アクセサリー感覚で身につけることができ、日常の願い事に使える数珠を提供することで、新たな市場を創造する。

独自技術とオリジナルブランドを発展させ、若者に無縁だった数珠にフォーカス

当社は、1877年に創業後、1959年から刺繍を開始し、パリの展示会にも出展し、シャネルやポールスミスなど国内外の有名ブランドにも高く評価されている。

一方、かぎ針を使用した当社の独自刺繍「カサモリレース」によって、オリジナルブランド「000(トリプルオー)」として、ネックレス、プレスレット、イヤリング等のアクセサリーを開発している。立体的な製品を求めるユーザーの要望に応じたスフィアシリーズは、従来にはなかったアクセサリーと評判を呼び、「グッドデザインぐんま」大賞にも選定された。

スフィアシリーズの発展形として、アクセサリー感覚の数珠を企画。人は強く願うときに、自然と手と手を合わせる。そのときに願いと人を結びつけるのが数珠。数珠は一般的に葬儀で使用する仏具であるため、デザイン

性が低く、若年層は敬遠しがち。若者が常に持ち歩くためには、今までにないデザインが求められる。



パリで開催されたメゾン・エ・オブジェ

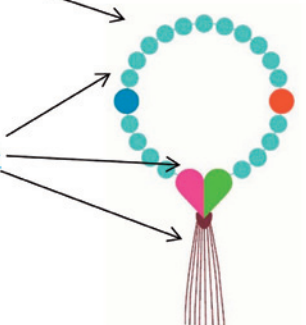
コード刺繍機能搭載の刺繍ミシンを導入し、革新的なデザインの数珠づくりに挑戦

アクセサリー感覚で新たな市場を創造する数珠の開発に当たっての課題は、革新的デザインの実現、球の大きさの拡大、親玉をハート型や星形にすること、の3点であった。

さの拡大、親玉をハート型や星形にすること、の3点であった。

従来の刺繍機でも作る事が出来る部分

新しい刺繍機でしか作る事が出来ない部分



数珠の開発イメージ

従来の刺繍機では革新的なデザインを創り出すことが困難であったため、平縫い、チェーン縫いに加えて、巻き縫い・テープ縫い装置、自動下糸交換装置が付いた刺繍機を新たに導入した。

数珠の基本形は抑えながらも、若い人が手に取りやすいモチーフの入った詳細デザインとするため、糸はいろいろな色があり、色落ちせず、安全性も高く単価の低い刺繍糸を選んだ。

ハートや星形、大球など従来には不可能だった形をつくるべく、新規導入の刺繍ミシンの調整が必要で、実際につくりながら刺繍プログラムの調整を入念に行った。お湯で洗って、刺繍のみを残す。洗浄した刺繍製品を乾

燥させ、力を加え形の崩れを検査。不完全な部分を修正し、刺繍→溶かす→修正の繰り返しによって開発を進めた。



デザインのラフ絵

自由度の高いデザイン、星形やハートの形も安定した数珠の試作に成功

房の試作では、コード刺繍機能を使った。多様な糸を組み合わせ、市販の糸では表現できない房をつくることのできた。

ハート型の開発に当たっては、従来のミシンでは何層も重ねると針折れが生じていたが、新機では針折れもなくきれいに刺繍でき、親玉がハートや星形の数珠を試作すると、回を重ねることに形が整っていった。

自動下糸交換装置を用いて数珠をつくることで、デザインの自由度が格段に高まることも証明できた。



多色数珠の試作

「祈り」を切り口にファッション性の高い数珠の市場を開拓し、5年後には5,000万円を目指す

刺繍加工は、海外への生産基地移転が進み、マーケットは年々縮小している。下請け企業が国内発展するためには、自家製品を持ちアパレル企業からの発注に依存しきらないことが必要だ。

今回の数珠プロジェクトは、自立のための一環。桐生市内に新たな刺繍の手法を確立し、協力工場など雇用拡大にも協力できる。世界で賞賛される「メイドインジャパン」を徹底し、国内はもちろん世界に向けて販売を拡

大していく。

アクセサリー感覚の数珠の市場は、仏具販売店やアクセサリーショップ、百貨店を含めた高級小売店、学校やwebによる直販など。当初の3年間は準備期間として展示会や専門店回りを行い、意見を集めて商品の改良、ブラッシュアップを行う。4年後から本格的にターゲットごとに売り込みをスタート。5年後となる2021年8月期の商品売り上げ規模を5,000万円と予定している。



事業者名／株式会社笠盛
代表者名／代表取締役社長 笠原康利
設立年／1877(明治10)年
所在地／群馬県桐生市三吉町1-3-3
電話番号／0277-44-3358

URL／www.kasamori.co.jp
資本金額／1,000万円
従業員数／15人
業種／繊維工業